①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・巻き尺の使い方を理解している。

・点と点を結んだり直線に合わせたりして測ることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・2年「100㎝をこえる長さ」で，長さを測るとき，端と端をまっすぐ直線につないで測る学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・計器を選択して使う経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・ものさしを使って測定する経験をしている。

教材研究ノート№3-C-1

≪学習問題≫

巻尺を使うと測りやすいいろいろなところ

の長さを測ってみよう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 巻尺はどんなものを測るときに便利なのかな。

→巻尺は，胸囲を測るときにも使っている。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:長さを予想して，長いものや丸いものを巻き尺の使い方に気をつけて測ってみよう。

③個人追究:巻き尺を使っていろいろな長さを測り，記録する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「巻き尺を使って，どんなところの長さを測りましたか？」

→「ものさしで測りにくいところ」「丸いもの」「長いところ」

　「空間（線がひけないところ）」「デコボコしているところ」

④共同追究後半（思考を深める）

「鉛筆の長さも巻き尺で測ると便利かな？」

→「鉛筆は短いから巻き尺だとふにゃふにゃしていてはかりにくい。ものさしのほうがはかりやすい。」

「巻き尺は，長いものや丸いものを測るときが便利。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・巻き尺は，長いものや丸いものの周りの長さを測るときに便利。

・長さや測るものによっては，測りやすい巻き尺やものさしを選んで使うとよい。

⑥定着･活用問題

何を使って測ったらよいか，使うものとその理由を書きましょう。

足の大きさ　　冷蔵庫の周り　　滑り台の高さ

階段の長さ　　トラックの長さ　　時計の周り

腕や足の長さ



＜本時の展開に当たっての留意点＞

・実測する活動を通して，どのような場面で巻尺を使うと便利かに気付かせ，実際の生活場面である量を測定するとき，測定に用いる計器を選択できるようにしたい。

・これまでの学習を生かし，身近なものの長さや基準となる長さをもとに，その量がどの程度の大きさであるか，およその見当を付けてから実測することで量感を養うことを大切にしたい。